

第2回 大規模コンパクトシティ・パリの成立

－歴史都市から近代都市への構造改革

岡部 憲明

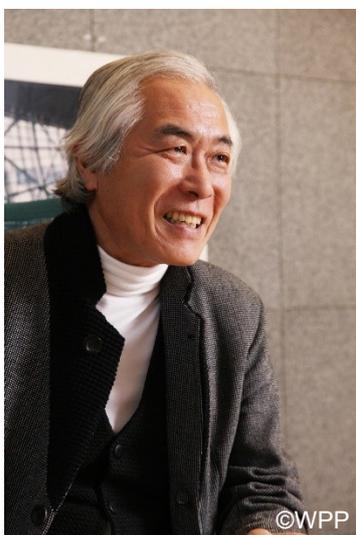
2020年3月3日 講演の概要

フランス革命200年記念の1989年にパリでは万国博覧会が計画されていた。このプロジェクトに1981年ごろから2年ほど関わった。パリの万博開催時の交通シミュレーションやセーヌ川の水上市活用、閉会後の跡地利用など、様々なアイデアが計画された。経済的、政治的理由などで万博は中止になったが、このプロジェクトに関わった時間は、19世紀に行われた5回のパリ万博について学ぶ機会となった。19世紀の万博に加え、1937年のパリ世界博の資料を目にし、パリが近代都市として改造される過程で万博が果たした役割を知ることができた。

実現されなかった1989年のパリ万博の代わりにルーブル美術館大改修やアンドレ・シトロエン公園の実現など、都市改造が成立している。高密度で大規模なコンパクトシティと言ってもいいパリの成立を万博に触れながら検証してみようと思う。

岡部 憲明 氏 プロフィール

建築家／岡部憲明アーキテクチャーネットワーク 代表



1947年静岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒業。フランス政府給費研修生として渡仏後、レンゾ・ピアノと20年間にわたり協働、ポンピドゥー・センター、IRCAM音響音楽研究所の設計に従事。1995年に岡部憲明アーキテクチャーネットワークを設立。神戸芸術工科大学教授（1996 - 2016）。代表作に関西国際空港旅客ターミナルビル、牛深ハイヤ大橋、小田急ロマンスカーVSE、MSE、GSE、箱根登山電車アレグラ号、大山ケーブルカー、在東京ベルギー大使館など。著作に『エッフェル塔のかけら』『空間の旅』『関西国際空港旅客ターミナルビル（監修）』など。